

## 大分市総合計画検討委員会 第2回 総務部会 議事録

◆ 日 時 平成27年9月30日(水) 15:00～17:00

◆ 場 所 大分市役所議会棟 3階 第5委員会室

◆ 出席者

### 【委員】

村嶋 幸代 部会長、有松 一郎 副部会長、荒金 一義 委員、池邊 泰治 委員、川野 恭輔 委員、長谷尾 雅通 委員、藤田 敬治 委員(計7名)

### 【事務局】

企画課 参事補 安達 浩、同参事補 金子 明弘、同主任 佐藤 洋、同主任 恵藤 淳矢

### 【プロジェクトチーム】

人事課 主査 河越 隆、財政課 参事 衛藤 興憲、税制課 主事 中原 美夏、議会総務課 主事 藤島 慎二

### 【傍聴者】

2名

◆ 次 第

1. 開会
2. 議事

- (1)大分市人口ビジョン(案)について
- (2)大分市総合戦略(素案)について
- (3)その他

### <第2回 総務部会>

事務局	<p>本日はお忙しいところご出席いただきまして、まことにありがとうございます。</p> <p>ただいまから、大分市総合計画検討委員会 第2回総務部会を開催いたします。</p> <p>まず、本日お手元に資料をお配りさせていただいておりますので、その資料の確認からさせていただきますと思います。</p> <p>(資料の確認)</p> <p>それでは、会議に先立ちまして、事務局から5点、連絡事項がございます。</p> <p>まず1点目ですが、会議の公開についてでございます。</p> <p>本市におきましては、市民の市政に対する理解と関心を高め、開かれた市政を推</p>
-----	---

進するため、会議を公開にて行っております。

そこで、本検討委員会も広く市民の皆様のご意見をいただくという観点から一般公募の市民委員の参画をお願いするなどし、さらに会議の公開、傍聴等を行ってまいりたいと考えておりますので、ご了承くださいませようよろしくお願いいたします。

また、委員の皆様のご議論につきましては議事録を作成しますが、こちらにつきましても広く市民の皆様を検討の経緯をお知らせするという観点から、大分市のホームページ上で公開してまいりたいと考えております。

なお、傍聴につきましては、会議室の規模等により部会長の判断をいただきたいと考えておりますが、傍聴者の発言は原則認めないこととし、意見等につきましては別途傍聴者用にアンケート用紙をお配りしておりますので、そちらをお帰りの際にご提出いただくこととさせていただきたいと思います。もし、傍聴者が本会議の進行を妨げるような言動をとった場合には、部会長より警告をいただき、なお改善がなされない場合は退室を命じることとさせていただきます。

続きまして2点目でございます。大分市総合計画(素案)の差しかえについてでございます。お手元にお配りしております大分市総合計画(素案)の10ページ、11ページですが、こちらの差しかえをお願いしたいと思います。変更箇所でございますが、裏面の11ページをご覧ください。「第3章 基本計画の要件」の「(4)出生数及び合計特殊出生率」と書かれた欄についてです。具体的な変更箇所は、この項目の見出しに、以前は「推移」という言葉が入っていましたがその文言を削除した点、また、本文2段落目の平成31年度の出生数見込みを、当初5,500人と表記していましたが、算出の誤りがございまして4,200人に下方修正した点の2点でございます。大変申しわけございませんが、先月お渡しをした資料を、本日お配りのこちらの資料と差しかえていただきますよう、よろしくお願いいたします。

続きまして3点目でございます。お手元にA3クリップどめで、「現総合計画の施策総括評価 平成27年度行政評価」と書かれた資料をお配りしております。こちらの施策とは、現在構成上の節に当たる部分になりますが、現総合計画では46施策ございます。こちらの46施策一つ一つの施策について、これまでの取り組み実績や課題などを踏まえた総括的な評価を行い、あわせて、これから策定しようとしております新総合計画の際に考慮すべき事項等を市の内部で整理したものでございます。その資料をもとに、先般お渡しいたしました総合計画(素案)を作成しております。

なお、各施策についての総括評価ですので、総務部会の皆様にご議論いただく基本構想や基本計画総論の部分につきましてはこの資料には入っておりませんが、ご参考までに配付させていただきました。また、こちらの評価につきましては、今後別途組織しております外部行政評価委員会という市民参画の組織に提示をする中で、またご意見等をいただく予定になっております。

続きまして4点目でございますが、皆様方のお手元に「新旧対照表」という左上をダブルクリップでとめた一番分厚い資料をお配りさせていただいております。こちらの新旧対照表については、今後の議事の際に直接使うものではございませんが、前回第1回目の検討委員会の際に、他の部会の委員さんからこのような新旧対照表をつくってほしいというご要望をいただいておりますので、今回皆様方のお手元にお配りさせていただいた次第です。実際、議論の際に直接使うものではございませんが、現行計画との比較対照をしたいという場合に、適宜ご参考いただければと考えております。

最後になります。5点目ですが、「大分市総合計画検討委員会 総務部会での意見

内容及び意見に対する市の考え方等」という、現在白紙ではございますけれども、A4の資料を1枚お配りさせていただいております。こちらは、今後開催される部会のたびにその部会で皆様方からいただきました意見、また、それに対しその場で返答できないこともあろうかと思っておりますので、一度事務局で持ち帰ってそれに対してそれぞれ市の考え方を整理し、さらに必要に応じて今後の原案作成の際の修正等に反映していきたいと考えておりますので、毎回この様式に前回の議題での意見を整理し、フィードバックする形で皆様方にお示しをしたいと考えております。

今回は、まだ実際の議論をいただけておりませんので白紙の形になっております。あくまで様式としてこのような形でお示ししたいと考えておりますので、本日はご参考までにお配りさせていただきました。なお、こちらの様式の意見等をもとに最終的に皆様方に作成いただく提言書に結びつけてまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

以上、非常に長くなって恐縮ですが、事務局からの連絡事項として5点ご説明をさせていただきます。

それでは、ここから議事に入らせていただきたいと思います。議事の進行につきましては、検討委員会設置要綱第7条第4項により部会長が行うこととなっておりますので、村嶋部会長をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

部会長

よろしくお願いいたします。

では最初に、議事に入る前に今日初めてご出席いただいております委員さんから一言自己紹介をお願いしたいと思います。

委員

(検討委員自己紹介)

部会長

どうもありがとうございます。

では、次第に従いまして議事の進行を務めさせていただきます。

まず、議題1の大分市人口ビジョン(案)についてご説明をお願いします。

事務局

大分市人口ビジョン(案)についてご説明をいたします。

まず、先にお配りしました「大分市人口ビジョン(案)」をご覧くださいませでしょうか。最初に目次をご覧ください。大分市人口ビジョンは、「人口ビジョンの位置づけ、対象期間」と「大分市の人口の現状分析」、「大分市の将来人口の推計」、「目指すべき将来の方向」という大きく4つの構成となっております。

1ページをご覧ください。人口ビジョンの位置づけ、対象期間です。大分市人口ビジョンは、大分市総合戦略を策定するに当たり本市における人口の現状を分析し、今後目指すべき将来の方向性と人口の将来を展望するものであり、まち・ひと・しごと創生の実現に向けた重要な基礎となるものと位置づけております。また、総合計画の策定に当たりましても同様に重要な基礎となるものでございます。対象期間についてですが、国の長期ビジョンの期間を踏まえて2060年としております。

続きまして、2ページ目をご覧ください。大分市の人口の現状分析です。最初に、人口の推移と世帯数・1世帯当たりの世帯人員の推移です。国が2008年、大分県が1985年をピークに人口が減少に転じている中、大分市の人口はわずかではあります

が増え続けております。

次に、4ページをご覧ください。人口動態です。出生、死亡からなる自然動態と、大分市への転入と大分市からの転出からなる社会動態の二つの推移を記載しております。最初に自然動態ですが、出生数は2006年以降毎年4,500人程度となっており、死亡数は年々増加しております。まだ出生数が死亡数を上回っているため、大分市全体としましては自然増となっております。一方社会動態ですが、2013年までは大分市からの転出者よりも大分市への転入者が上回っていたため転入超過となっておりますが、昨年、転出者が転入者を上回り、社会動態は減少に転じております。社会動態が減少に転じたものの自然動態の増加分が上回っているために、結果としましては、大分市の人口はわずかではありますが増え続けております。

次に8ページをご覧ください。出生数と合計特殊出生率の推移です。大分市の出生数は最近ではおよそ4,500人前後となっております。合計特殊出生率については全国の合計特殊出生率よりは高い水準で推移していますが、大分県の合計特殊出生率よりは低い水準で推移しております。

次に11ページをご覧ください。平均寿命と健康寿命です。本市の平均寿命は年々伸びており、2010年では男性が80.46歳、女性が86.91歳となっております。また、2010年の本市の男性の健康寿命は78.86歳、女性は83.53歳となっております。

次に13ページをご覧ください。大分市の将来人口の推計になります。2010年の国勢調査を基本とし、2013年3月発表の国立社会保障・人口問題研究所、いわゆる社人研の数値を用い将来人口を推計しております。社人研推計によりますと、このままの状況で人口が推移していけば、2040年には大分市の人口は43.8万人となり、2010年比で3.6万人減少すると予測されています。また、生産年齢人口は減少、高齢人口は増加して、高齢人口割合はおよそ34%に達することが予想されております。

次に14ページをご覧ください。2010年の国勢調査時の大分市の支所ごとの人口分布図と、2040年に大分市の人口が43.8万人になった場合の支所ごとの人口分布図になっております。

15ページから19ページまでは支所ごとの人口推計を記載しておりますので、後ほどご覧いただければと思います。

少し飛ばしまして、20ページをご覧ください。目指すべき将来の方向です。基本的視点についてですが、人口減少の対応は二つの方向性が考えられております。一つが、出生者数を増加させ人口構造そのものを変えること。もう一つは、首都圏への転出者の抑制と地方への転入者の増加を図ること。この二つの対応を同時に進めていくことが重要となり、自然増と社会増の両面から人口減少問題に取り組み、人口減少のカーブをできる限り緩やかにしていくこととしております。

次に、人口の将来展望についてです。国においては、2030年までに合計特殊出生率を1.8程度、2040年には人口置換水準である2.07程度にまで回復した場合、2060年の人口が1億人程度確保できると見込んでおります。

大分県においても2030年までに合計特殊出生率を2.0程度、2040年には2.3程度にまで高め、さらには大分県外から社人研推計に加えて毎年1,000人程度の社会増の上乗せを図ることによって、2060年の人口がおよそ96万人となり、2100年には100万人近くまで回復していくこととしております。

21ページをご覧ください。本市の将来展望につきましては、自然増については大分県の合計特殊出生率を踏まえて、2030年までに合計特殊出生率を2.0程度、204

	<p>0年には2.3程度まで高めることとしております。</p> <p>また、社会増については県外からの転入者を増やすことを目指してあります。</p> <p>このように、社会増対策と自然増対策に取り組むことによって、表の一番右側の赤の線になりますが、2060年の大分市の人口は45.0万人となります。そのため、大分市は2060年に45万人程度の人口維持を目指してまいりますという目標を掲げております。</p> <p>人口ビジョンの説明については以上でございます。</p>
部会長	<p>ありがとうございました。</p> <p>では、何かご質問やご意見はございませんでしょうか。これがどのように具体化していくのだろうかというところが、ものすごく課題だと思いたしますが。</p>
委員	<p>11ページの平均寿命と健康寿命のところですけど、大分の平均寿命は非常に高いが健康寿命が全国的に見ても非常に低いと言われてますよね。その低いという事実について皆さん非常に関心を持っているのではないかと思います。</p>
事務局	<p>こちらのほうでは、平均寿命と健康寿命という形で記載をしているのですが、今委員さんがおっしゃられた健康寿命は国が発表しております、実際は都道府県レベルの数値しかなく、市町村レベルでの数値は公表されておられません。そのため、こちらで取り上げている数字というのは下のほうに書いていますが、大分県が独自に健康指標計算システムというのをつくられておまして、そちらを元に算出された年齢を記載させていただいております。しかしこの記載をした後、正確に言うと8月末ですけども、大分県ではこれまでこの独自のシステムで算出された年齢と国が発表している健康寿命、どちらも健康寿命という言い方をしていたのですが、県の独自システムで算出された年齢についてはお達者年齢として整理をしますということで発表されました。そのため、こちらの記載の表現方法については今後正式に策定するまでに整理をさせていただこうと考えております。</p> <p>ただ、このシステムで算出されたお達者年齢の数字そのものには間違いはないところでございますので、健康寿命とはまた異なるということでご理解いただければと思います。</p>
委員	<p>なるほど。しかしせっかく数字が出ているのであれば、大分県、大分市が出ていて、国の数字も掲載できるのではないかと思います。その分は比較対象には入れられないのですか。</p>
事務局	<p>基準が全く違っており一概に比較対照ができないのでなかなか難しいかと思いたます。国の算出方法は基本的にアンケート調査に基づき算出しているものであり県のシステムと算定項目も全く異なるため、すみませんがご理解いただければと思います。</p>
委員	<p>私もちょっとこれについて調べたことがあるのですが、健康寿命についてはこのやり方で出すというのが明確に決まっていなみたいで、ある健康寿命だと何位だけでもこちらの健康寿命では何位と、都道府県のランキングも変わったりするみたいです。</p>

事務局	そうですね。さらに申し上げますと、WHOと国が出しているものも異なるらしいので、確たる健康寿命の出し方はないというところがあります。
委員	健康寿命という言葉は結構ひとり歩きしていますよね。我々もよく敬老会等に行くと、健康寿命、健康寿命といって、いつも例を出しながら言わせてもらうのですが、今の話でいうとそれ自体もまとまっていないということで、行政が使うものですから、あまりこの言葉ばかりがひとり歩きしてはどうかとも思いますね。 それでは、また詳しいデータなどがあれば、報告してください。
事務局	はい。
副部会長	よろしいでしょうか。合計特殊出生率の問題などがずっと言われていて、いろいろな分析はあるのですが、どうもびんとこないのがなぜ晩婚であり、そもそも少子化になったのかということ、国レベルや、例えば大分市においてはどうかという分析はどの程度まで行われているのでしょうか。統計データではなく、現実になぜ結婚したのかという部分についての調査みたいなものは何かありますか。
事務局	この策定に当たりまして、アンケート調査を市民3,600人および転出・転入者各200人、さらに高校生、大学生を含む合計約5,000人を対象にアンケートをとっております。その報告書については次回お示しできる予定ですが、その結果をみると、晩婚になっている要因として経済的なものなどがあがっておりますので、そのあたりの対策を講じていかなければいけないのかなとは分析しております。
副部会長	そうですね。将来的に合計特殊出生率を2.30というのは大変大きな高い目標だと思うので、そのあたりの対策を具体的に一つずつ講じていかないと、スローガンとかけ声だけではなかなか具体的なものにはなっていないのかなというところが気になったものですから、ちょっとお伺いしました。またぜひその報告書を楽しみにしております。
事務局	本当に、こちらは大変難しい問題ということは認識しております。結婚もそうだけれども出産につきましても、これは個人の価値観等もございましてなかなか難しい面があるのですが、結婚しやすいとか、子どもを生み、育てやすくなるような行政サービスとかをこれからさらに充実させていかなければいけないと考えております。
部会長	結局、若い女性たちが結婚しないのは、自分の自己実現といいますか、自分の能力を伸ばすために勉強や仕事をしたいということと、出産・子育てをすることが矛盾をしている社会だからだと思うのです。だから、そこが矛盾をしないような体制整備をしないと、結局はかけ声だけに終わるのではないかという気がするのですが、いかがでしょうか。
副部会長	私が携わっている社会福祉法人では、今年大きなチャレンジを始めました。一つは、今部会長がおっしゃる自己実現、ワーク・ライフ・バランスのとれた就労の実現という中で、最初に就職されたときに自分はこういうふう成長していきたいと思うことが可能になるようなキャリアアップ制度も含めた施策と、それからその間に訪れるであろう

結婚や出産といった人生の節目、そのときも一時的には職場を離れることがあっても必ず戻って来られるようにする支援です。

それからもう一つ経済的な理由というのもありましたが、今回給与の考え方も大幅に変えて、採用からちょうど子どもが大学に行くぐらい、女性の年齢でいえば40代半ばあたりに給与カーブを大きく持って行ってぐっと昇給させて行って、そのかわり45歳ぐらいから退職まではちょっと楽しみがないのですが、ベースアップを抑え目にするなどの給与体系を今年から設置しました。

なぜそういうことをしたかという、福祉の職場は過酷だと言われますが、私どもとしては1回採用した方に長く勤めてもらい、プロフェッショナルになっていただきたいわけです。そうすると実際に大変喜ばれていまして、たまたまタイミングもよかったのでしょうけれども、育児休業であるとかあるいは出産のための休業であるとか、例年にも増して申請が増えており、私としては幸せなニュースが毎月毎月届いて非常にうれしい限りの状況になっております。

です、さっき言った価値観などはなかなか変えづらい、強制しづらいものがあるものの、何かを変えていくためのかけ声、スローガンはつくることができるのではないかというのは実感として今持っております。

部会長

そうですね。すごくいい例だと思います。だからそれがかけ声だけにならないように、具体的な施策としてどうしたらできるかです。それから、ここは総務部会ですから、具体的なことについてはほかの部会があるわけですが、そこにこういうことも考えてくださいという要望といいますか、お願いを総務部会から出す、そうすると少し具体化するような気がしますね。

だから、給与カーブの検討も会社で考えるような機運をつくろうとか、あとはワーク・ライフ・バランスを保ち子どもを産んでも働けるような保育所と学童保育ですね。大分市の学童はさらに充実させる必要があると聞きますけれども、そういうことを含めて、総合戦略ですから何かここで出た意見をほかの部会にも出せるといいなという気が個人的にはいたします。

そのようなことも踏まえ、出産、子育てをはじめ、人口に関していかがでしょうか。

委員

大分市人口ビジョン(案)ということで、これを皆様で話し合ってくださいというのは正直なかなか難しいなと思いました。というのは、お示しいただいておりますとおり、国や社人研などが調査した数字を集めて、現在現状あるものとしてここにまとめていただいた上で今後大分市がこうなるだろうという仮説立てを多分していただいて、そこから目標とかをはじき出していただいていると思います。当然私どもの企業もそうですが、売り上げ目標を立てるときはどのような取り組みをして、どういうふうに前年から数字が上がっていくかを積み上げてきて、ある程度目標を仮説立てていかれるという動きがあります。方法はそれぞれで違うとは思いますが、文中にありました2012年の1.51から2030年に2.0程度まで0.49高めていくのは結構な幅だなと思いつつ、どのような取り組みをするのかがなければ数字のはじき出しもなかなか難しいのかなと思います。

部会長

今4,500人ぐらい毎年生まれており、合計特殊出生率が2.09や1.8とかになるとときには1年間に何人ぐらいの子どもが生まれるのかという、そういう算出数字はあるので

	<p>すか。また、そのためには例えば20代後半の人たちが何割ぐらい結婚すればいいとか、子どもを産めばいいとかという、何かそういう年代別の試算のようなものはあるのでしょうか。それが必要だと感じます。</p> <p>また、東京は子どもを産む率が非常に少ない、そうしたところに若い人が流れていることが問題だと私たちも聞くのですが、大分県に比べて大分市の合計特殊出生率が低いということは、大分県の中でも大分市というのは都会化されているかどうかわかりませんが、多分子どもが産みにくい、都会的な要素が多いのだろうなと思います。ではどう対応すればもっと子どもを産んだり育てたりしやすくなるのかという具体策をもうちょっと踏み込んでつくっていかないと、戦略も何もありませんよね。</p> <p>他の委員さんはいかがでしょう。</p>
委員	<p>将来人口を45万人にするには、社人研データに合計特殊出生率を上げた場合と、それにさらに社会増を上乗せしたところが出てくると思うので、また次回でもそういう積み上げを提示いただければいいのではないかと思います。</p> <p>そもそもこの人口ビジョンというのは国も1億人という目標を設定していますが、それはかなり目標値みたいなところがございます、大分県もここに出ておりますとおり2060年に96万人、つまり約100万人近くというのを目いっぱい踏ん張って設定したところがございます。特に社会増はそうですし、自然増においても合計特殊出生率の数値を非常に高く設定しないといけません。ただ、それに向けて今までにない行政施策に上乗せをしてやって上げていこうというのが大きな流れで、これは国も県も一緒でございます、そういった流れで大分市もこれをつくられたと思うので、ちょっと皆さんが分かりやすくなるような解析データみたいなものを積み上げて次回出されたら、また議論が深まると思います。</p>
部会長	<p>やはり年代別の婚姻率など、それが何%増えればどのぐらい子どもが増えるのかというような試算はできると思うのです。婚姻と出生は、必ずしも一致しないとはいえ、そこはシミュレーションをすればいいだけです。結婚して何年後かに何%の人が1人産むとか。</p>
事務局	<p>適切なお答えになるかどうか分かりませんが、初婚の年齢が20歳～24歳で結婚した場合の10年～14年後の出生子ども数が2.09人で、25歳～29歳で結婚した方の10年～14年後の出生数が1.87人、30～34歳で結婚した場合が1.50人、35～39歳で結婚した場合が1.16人という、そういうデータは把握できております。しかしそれ以外のデータというのがなかなかなくて、今申し上げましたように結婚が早いと確かに子どもの数は増えるという傾向はございますので、そこに向けた取り組み等も必要になってくるとは考えております。</p>
部会長	<p>いつも何%という率の数字ばかりが出てくるのですが、具体の数字といえますか、実数がなかなかなくてもどかしく感じます。</p>
委員	<p>そうですね。一般的には15歳～49歳の女性が合計特殊出生率の算出でとられますけれども、多分その女性の人数そのものが減っていけば、出生率が上がっても生まれる数は減っていくという、数字のマジックのような状況になると思います。つまり、人</p>

	<p>口置換水準が2.07としても結局は維持できずにどんどん人口は減っていく。これが多分何十年間かは続いていく状況にあると思いますので、率も大切な部分はあるのでしようけれども、今部会長がおっしゃられたとおり出生数そのものを見るのも一つ重要なところではないかと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>推計上の出生数自体の数字も出生率と同じくありますので今度お示しはさせていただきますと思いますが、今、私どもの手元に総合計画の期間である2024年までであれば数字がございますので説明させていただきますと思います。2020年で4,204人、2025年で4,330人になると推計しております。次回は合計特殊出生率が上がったときに出生数がどうなるのか、2060年までのものをお示しさせていただきますと思います。</p>
<p>部会長</p>	<p>そうですね。出生数そのものもですけど、もとのその年代の女性に割り戻したときなどのシミュレーションがある程度あると、具体的に見えてくるように思います。</p>
<p>委員</p>	<p>今の関連で、例えばこういった人口に係る議論などは市民福祉部会などの他の部会でも同時に議論するわけですよ。そしてその中で当然、また違った意見も出てくる可能性があるということですね。</p>
<p>事務局</p>	<p>はい、出る可能性はあります。</p>
<p>部会長</p>	<p>でも、やはりあくまで施策にどう落とし込んでどう実効性を持たせるかということが議論されないとむなしいですよ。</p>
<p>委員</p>	<p>総合戦略の施策がこの人口ビジョンとリンクしていくもので、この人口ビジョン自体は事実関係といいますか、その数字を出しているという見方でよろしいのですか。</p>
<p>事務局</p>	<p>そうですね。人口ビジョンは2060年まででまだかなり先の推計になるのですが、そのための最初の5年間に何をどうしていくかというのが総合戦略になりますので。</p>
<p>委員</p>	<p>昨日も県議会で、出産人数に応じて出産祝い金を出してはどうかと提案された議員さんもいらっしゃったようですが、県でも具体的なことが動いていくのではないですか。</p>
<p>委員</p>	<p>人口ビジョンというのは先ほど申し上げたようにかなり高い目標です。ただ、2060年に45万人というこれから45年後の姿を、まず市民の皆さんがどう思うかですね。今50万人近くいる大分市の人口が、極端に30万人ぐらいに減るといったとき、皆さんがそれでもいいよと言うのか、それとも現状維持だとか50万人が望ましいと言うのか、いろいろ皆さんのお考えがあると思います。そういったときに人口増と社会増をうまく絡めていって、現在の社人研の推計に上積みすることができますよというのがこの人口ビジョンなので、むしろ今日議論が始まっていく総合戦略のところに向けて、先ほどの繰り返しになりますけれども、今まで大分市がこういう施策を進めてきたけれどもそれではだめなので、もっとこういう思い切った政策を進めてくれよというような意見を各部会がしっかりしていくべきではないかと思います。</p>

<p>部会長</p>	<p>それに関して言うと、この人口ビジョンでは県内で見ると大分市に周辺の自治体から人口流入しているが、他県と比べると宮崎県や長崎県からは入ってきているけれども、福岡県や関東圏にそれ以上の人が出ていっている。しかし、人口増のうち社会増はいくら食いとめると言っても、結局は他の自治体とのやりとりですから、流出を食いとめるのは大事だし流入を図るのは大事ですが、やはり絶対的な増加を図らないと日本全体がシュリンクしていくのはどうかと思います。</p> <p>それから人口ビジョンの14ページをご覧くださいますと、大分市といっても一律ではなくて、大分市の中のある地域は人口増ですけれども、野津原と佐賀関は大幅な人口減が予想されています。結局、大分市の人口を増やすといったときに地域間の人口格差をどうするのかという話もありますので、そこも含めて45万人という数字をどう考えるのかという議論が本当は必要なのでしょう。それについてはどうでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>中部振興局は大分市を含めて4市を管轄してしまして、その中の他市の総合戦略策定についても委員になっているのですが、その中では周辺市にとっては大分市に人口が出ていく状況にあるが、それについて大分県としてどう考えるのかと聞かれました。しかし大分県の人口ビジョンが96万人というのは、大分県総体で見ているわけです。各市間の人口動態、転入・転出というのはなかなかはかりがたいのです。同じように大分県から福岡県に出ていっている現状も当然あるわけですから、そういった話の中で議論するよりも、むしろよそからどう持ってくるかという議論と、フランスの例もありますが、日本全体がシュリンクしないように合計特殊出生率をどう上げていくとかいうところをちゃんとみんなで議論しようよという流れがいいのではないかと思います。</p>
<p>事務局</p>	<p>今、人口ビジョンや総合戦略が全国でつくられている中で、どこの市町村も周辺市町村から転入者が増えるという仮定のもとにつくっていますが、日本全体で考えたときには移民が入ってこないとおかしな話になってくるとは思いますので、そこは多分大分市単体で考える方法を取らざるを得ないかと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>ちょっとよろしいですか。少子高齢化ということで、人口の現状の分析等をもう少し掘り下げていただければ、また議論の余地もいろいろな部分でできてくるのではないかと思います。具体的に申し上げますと、大分市の人口の現状分析の中にある、「(6)婚姻数・婚姻率と離婚数・離婚率の推移」、「(7)未婚率の推移」、「(8)平均寿命と健康寿命」ですね。特に、他の委員さんが健康寿命について言いましたが、直近の数字的なデータなどを示していただければ、我々もいろいろな声が出るのではないかと思います。</p>
<p>部会長</p>	<p>婚姻率は全国の中でも大分県は低く、しかし大分市は高いのですよね。また、未婚率がずっと上がってきているのが大きなところかなという感じがします。</p>
<p>委員</p>	<p>そうですね。未婚率、離婚率の影響は大きいと思われます。</p>
<p>委員</p>	<p>統計の見方についてですが、佐賀関、野津原との合併前後についての数字はどの</p>

	<p>ようになっているのでしょうか。</p>
事務局	<p>2ページの人口の推移というところは純粹に大分市だけです。そのため、2000年から2005年の間は合併により3万人ほど増えております。</p> <p>ただ、13ページからの将来人口の推計につきましては合併前の佐賀関、野津原の人口を加えています。というのが、ここを加えずに今後の推計を出すのはおかしいので、そういうときには加えるという形をとっております。</p>
委員	<p>ちょっと気になるのでいいですか。先ほど他市町村の話も出ていましたが、これからは都市間連携ということも話にあがってきます。連携をとるということは人口移動の問題などさまざまな兼ね合いが出てくるのではないかと思うのですが、この人口ビジョンについては気にしなくてよろしいのでしょうか。</p>
事務局	<p>そうですね。連携中枢都市圏構想につきましては、基本的に本市と10%の通勤・通学圏内にある周辺市町が要件を満たしております。具体的にはごみの焼却など、そういう分野での連携をしてみてもどうでしょうかということで国の方が示しております。</p> <p>人口ビジョンでは、それぞれの自治体の今後の人口構成なども当然加味はするので、全く関係しないわけではないのですが、他市町へ住むとか移住するということと、連携中枢都市圏構想はまた別の観点かと思われれます。</p>
委員	<p>今、連携の部分でごみの問題が出ましたが、それ以外にどういうものがあるのかということを紹介していただければと思います。</p>
事務局	<p>連携中枢都市圏構想ということで、大分市と周辺の7市町とで検討を始めたところです。今年度は取り組みについての協定を結ぶところまで進め、具体的な事業については次年度平成28年度からということになるのですが、実際何ができるのかという検討についても来年度以降の話になるので、その中で今のごみ処理であるとか、消防のことであったりとか、観光のことであったりとか、そういうさまざまな課題について、お互いの市で協力しながらできないかということ協議を進めていく予定です。そのための中核となるのが大分市ということで、経済圏の中心として圏域を引っ張っていくという気概を持って今年取り組んでおります。</p>
委員	<p>では、例えば保育などについては検討課題になるのでしょうか。</p>
事務局	<p>保育についても実際広域で行っており、例えば、別府市の方が大分市で仕事をしているので大分市の保育所に預けたいということであれば、当然検討対象になります。</p>
部会長	<p>活発なご議論をありがとうございました。では、もうそろそろお時間ですので、今のところはそれでよろしいですか。また次回、今日の不足資料等を出していただくということで事務局はお願いします。</p> <p>それでは2番目の議題に入りたいと思います。(2)大分市総合戦略(素案)について、ご説明をお願いします。</p>

事務局

では、続きまして大分市総合戦略(素案)についてご説明をさせていただきます。

こちらの総合戦略につきましては今年度末の策定に向けて現在取り組んでおり、本日素案をお示しさせていただいております。

まず、総合戦略の1ページ目をお開きください。最初に総合戦略を策定する趣旨について、基本的な考え方ということで書いております。大分市ではまだ人口減少社会を迎えておりませんが、国においては、既に本格的な少子高齢化、人口減少社会を迎えており、そのような中地方創生を重要政策として掲げ、人口減少を克服し、各地域の特徴を活かした自立的で持続可能な社会を創造する取り組みが進められております。本市においても、将来にわたり発展していくような地方創生に関する取り組みを進めていくために総合戦略を策定するものです。

続きまして、総合戦略の位置づけです。まち・ひと・しごと創生法に基づき策定するもので、大分市人口ビジョンでは2060年に45万人を目指すこととしておりますが、この人口ビジョンを実現するための目標や施策等を取りまとめるものになっております。

対象期間についてですが、2015年(平成27年)から2019年(平成31年)度までの5年間としております。

続きまして、大分市総合計画と大分市総合戦略との関係になります。こちらについては、以前お配りしました「総合計画と総合戦略の概要と関係性」という資料をご覧ください。大分市総合計画は本市の最上位計画でありまして、大分市総合戦略については個別計画という位置づけとなります。しかしながら、総合戦略は人口減少対策等に優先的かつ重点的に取り組み、将来の大分市が自立的で持続可能なまちであり続けるための計画となります。また、さまざまな分野に関連しますことから、大分市が目指すまちの姿に大きく寄与する重要な計画となるものと考えております。

総合戦略の策定に当たりましては、資料右下の緑の矢印のところになりますけれども、大分市総合計画(素案)の中から地方創生などに関連するものを抽出し設計したものが大分市総合戦略としております。

抽出に当たっては、次の2点の基本的な考え方に基づいて作業しております。まず1点目ですが、人口減少の克服や地方創生に直接つながるものです。また、計画期間が平成31年までとなりますので、2点目については優先的かつ重点的にすぐ取り組むもの、もしくは取り組まなければならないものという、以上の二つの基本的な考え方に基づいて作業をしております。

ここで委員の皆様にも、総合戦略(素案)についてどのようなご議論をさせていただくかというご説明になります。総務部会以外では、総合計画(素案)の各論を議論していただく中で、総合戦略に関連する内容につきまして地方創生を実現するという観点を考慮していただき、ご意見等をいただくように考えております。この総務部会につきましては、総合計画の各論部分が担当ではありませんので、そのため総合戦略の4つの基本目標と総合戦略全般についてご議論をいただきたいと考えております。

それでは、総務部会の役割の説明の前に総合戦略の概要等についてご説明をさせていただきたいと思っております。先ほど、総合計画(素案)の中から人口減少の克服や地方創生に直接つながる施策を抽出したものが総合戦略となる旨をご説明いたしましたが、どのような内容を抽出したかについてご説明をいたします。

本日お配りしております、先ほどの総合戦略(素案)の後ろの45、46ページのところをご覧くださいませでしょうか。併せて、本日お配りしています基本計画総論(総合戦略対応版)をご覧ください。こちらの基本計画総論(総合戦略対応版)の19ページ

のところに、「第6章 計画推進の基本姿勢」がございます。丸がそれぞれあるんですが、その丸の横にSマークつきの丸が2つついているかと思えます。一つが、「行政ニーズに対応した多様な連携」、2つ目が、「行政改革の推進・計画的な財政運営」というところにSマークがついております。このSマークは何かというと、このSマークがついているのが総合戦略のほうで抽出しているものとなります。総合戦略のほうでどのように抽出されているかといいますと、本日お配りしました大分市総合戦略(素案)の45、46ページをご覧ください。

45ページでいきますと、「未来へ向けたまちづくり」というところで、「(1)既存ストックのマネジメント強化」、「①公共施設等総合管理計画」というのがございます。こちらが、戦略の中で取り組んでいこうという内容になっております。そちらについては、先ほど見ていただいた基本計画総論の「行政改革の推進・計画的な財政運営」にSマークがついております。さらに総合戦略の46ページの地域連携による経済・生活圏の形成には、先ほど委員さんもおっしゃられておりましたが、連携中枢都市圏に関する記載があり、基本計画総論の今見ていただいております19ページの「行政ニーズに対応した多様な連携」にSマークがついていて、こちらから抽出しております。それを具体的な戦略という視点を加えて文書化したものが、今見ていただいております45、46ページとなります。

他の部会についても同じように地方創生に関連するところにSマークをつけていますので、ご議論いただくということになっております。

なお、本日は、現行計画との比較をした新旧対照表もお配りしておりますが、こちらにもSマークをつけておりますので、ほかの部会でこういったところにSマークがついているかというときのご参考にしていただければと思っております。

続きまして、総合戦略の構成と基本目標等についてご説明をいたします。こちらの説明に当たりましては、資料の「大分市人口ビジョン(案)と総合戦略(素案)の全体像」という、こちらのカラー刷りA3横の資料でご説明いたしますのでご覧ください。

最初に、資料の中央やや左側に基本目標というところがありますので、こちらをご覧ください。大分市総合戦略については大きく4つの基本目標を設定しております。一番上にあります、「しごとをつくり、活力に満ちた大分市」、「人にやさしいあたたかさあふれる大分市」、「時代にあった地域をつくり、住み続けたい大分市」、「安心安全な暮らしを守り、未来へ発展する大分市」の4つとなっております。

総合戦略(素案)では、「しごとをつくり、活力に満ちた大分市」が3～14ページ、「人にやさしいあたたかさあふれる大分市」が14～27ページ、「時代にあった地域をつくり、住み続けたい大分市」が28～35ページ、「安心安全な暮らしを守り、未来へ発展する大分市」が36～46ページとなっております。今申し上げました4つ基本目標を簡潔に申し上げますと、しごとづくり、ひとづくり、まちづくり、そして未来づくりの四つとなります。しごとづくりやひとづくりなど、それぞれが相互に関連し、優先順位等を特につけられるものではないのですが、国の総合戦略等を勘案する中で、大分市としての総合戦略では仕事があればひとが集まらず、ひとが集まってまちとなって、そしてそのまちを未来へつなげていくという考えのもと、この4つの基本目標を並べ体系化しております。

それぞれの目標ごとについてですが、例えば、「しごとをつくり、活力に満ちた大分市」の基本目標であれば、資料の中央やや右側になりますが、工業、商業、サービス業の振興といった基本的な方向を4つ掲げております。2番目の「ひとづくり」のところ

	<p>につきましては、結婚から子育てまでの切れ目のない支援というのをはじめとして、5つの基本的な方向、施策を考えております。こういったものについては、先ほどご説明しましたSマークが総合計画の基本計画のほうについております。</p> <p>それでは、今めくっていただいている資料の次のページ、大分市総合戦略(素案)と新総合計画対応表をご覧ください。こちらが、先ほど私が申し上げました大分市総合戦略の取り組みと総合計画の取り組みをどこから抽出しているかをわかりやすくお示した表になっております。左側の赤い枠で囲んでいる部分が総合戦略の体系部分で、右側の青い枠で囲んでいる部分が総合計画の体系となっております。こちらを見ていただくと、総合計画のどこから抽出したかがすぐわかるようにしておりますので、ご参考にしていただければと思います。</p>
部会長	<p>最終的に、どちらが大事になりますか。総合計画と総合戦略で、骨格になっていくのはどちらですか。</p>
事務局	<p>総合計画は大分市が実施する全体的な計画になるのですが、総合戦略はその中から人口減少社会への対応という視点をもって作成をする、抽出した項目です。つまり上位計画と実施計画のような位置づけで、全体的な方向性を示すものと、その方向性を達するために特化した計画が総合戦略です。</p>
部会長	<p>そういう意味からすれば、この資料のつくり方も本当は総合計画がベースとして左側にあって、それを実現するための総合戦略が右側に張りつく方がよかったですよね。</p>
事務局	<p>そこは悩んだのですが、今回の議題は総合戦略ということでそれを左側に持ってきて、どこをベースにしているかを右側に持ってきたということになります。確かにおっしゃるように、左側の方が優先順位が高いようなイメージになってしまうのですが。</p>
部会長	<p>それで、総合戦略の目指すところは何か。</p>
事務局	<p>人口減少の克服ということと、地方創生の実現というところでは。</p>
部会長	<p>では、ご説明は以上でよろしいですか。</p>
事務局	<p>すみません。続いて、今回の総務部会で議論していただく点についてですが、大分市総合戦略の基本目標と左上に書いてある資料をご覧くださいませでしょうか。</p> <p>この4つの基本目標につきましては、先ほど申し上げたように仕事があればひとが集まりませんし、ひとが集まってまちとなって、そしてそのまちを未来へつなげていくという考えのもと、しごとづくり、ひとづくり、まちづくり、未来づくりの四つの基本目標を設定しております。それぞれの基本目標における基本的な方向を記載しておりますので、こちらを読んでご説明いたします。</p> <p>1番の「しごとをつくり、活力に満ちた大分市」についてですが、基本的方向としましては、経済を活性化し、企業の経営基盤の強化や製品の供給体制の充実など、地域の発展を支える各種産業の機能強化を図り、さまざまな分野で働ける場の確保に努</p>

め、社会増のための環境を整えます。また、関係機関との連携を強化し、住む人や訪れる人にとっての新たな魅力を創出することで、にぎわいと活力に満ちたまちづくりを進めるとともに、情報通信基盤の整備を図る中、ICTを快適に活用できる環境づくりに取り組めます。

2番の「人にやさしい、あたたかさあふれる大分市」につきましては、基本的な方向として、若い世代が希望どおりに結婚し安心して子どもを産み育てることができるよう、結婚から子育てに至るまで切れ目のない支援を充実するとともに、地域や社会全体で子どもの育ちや子育てを支える環境を整えることで、すべての子どもが健やかに育つことができるまちづくりを推進します。また、確かな学力、豊かな心、健やかな体をバランスよく育成し、自ら学び、自ら考えるなどの生きる力を育む教育の創造に努めます。さらに、人権を尊重し、互いに認め合う中で、高齢者や障がい者、女性など誰もが住みなれた地域で生きがいを持って、安心して暮らしていける社会の実現を目指していきます。

3番の「時代にあった地域をつくり、住み続けたい大分市」ですが、基本的な方向としまして、市民と行政との信頼関係をより高めながら、地域の活力と魅力を最大限に引き出し、地域コミュニティの活性化を図る中で、市民一人一人が健康で安心して誇りを持って暮らせる地域社会の構築を目指します。また、文化・芸術をいかしたまちづくりを進めるなど、大分市の魅力づくりと情報発信に努めるとともに、豊かさを実感できる安全で快適な住みよい居住環境の創出を図りながら、移住・定住を促進します。さらに、豊かな自然を次世代に引き継いでいくため、環境の保全に努めます。

最後の4番、「安心、安全な暮らしを守り、未来へ発展する大分市」です。基本的な方向としまして、自然災害などあらゆる不測の事態に対応するため、市民と行政、防災関係機関が連携・協力して、災害に強い、安心・安全なまちづくりを進めます。また、バランスのとれた都市の創造を目指して、各地域の現況や特性に配慮し、魅力ある地区拠点の形成を図るなど、均衡ある発展と秩序ある市街地の整備を進めます。さらに、総合的な交通ネットワークの形成を図るとともに、周辺市町や県等、さまざまな団体と連携を図り、未来へ向けたまちづくりを進めます。ということにしております。

このような考え方をもとに4つの基本目標を掲げておりますが、このような視点でよいか、あるいは人口減少社会に対応するためにはこのような考え方も必要ではないか等、総合戦略全般について、本日この部会でご議論いただければと思っております。もちろん、先ほどありましたように施策等の細部に関するご意見等でも構いません。これから地方創生の実現に向けて、大分市が取り組むべきこと等に関するご議論をお願いしたいと思います。

説明は以上になります。

部会長

ありがとうございます。

まず、私の方からですが、赤色の1、2、3、4の基本目標の中にダイヤモンドがありますが、これはどういうものになるのでしょうか。これは数値目標ですか。

事務局

これは、基本目標の中の数値目標です。

部会長

個人的には、2のひとづくりのところに「新体力テストにおける総合評価がC以上の児童生徒の割合」や学力調査の結果がどうして出てくるのだろうか、何かちょっと違

	<p>和感を覚えます。そういうことを含めて意見や質問を言っていいたいということだと思いますので、どうぞ。</p>
委員	<p>総合計画の中では、この総合戦略の内容については大体出ているのですか。</p>
事務局	<p>基本的には総合計画を最上位計画と位置づけておりますので、総合計画で取り組んでいないことを総合戦略では記載できないと認識しております。総合計画の中で、先ほどの人口減少対策だとか、地方へ人を呼び込むとか、仕事をつくるという取り組みを基本的に体系化したものが今回の総合戦略とご理解いただければと思います。</p>
委員	<p>要は、総合戦略は人口減少社会を克服するということですね。となると、タイトルのところですが、これで働く人が増えるとか、これで子どもが増えるとか、もっと人口が増えるようなイメージのタイトルって何かなかったのですかね。「人にやさしい、あたたかさあふれる大分市」というと、非常に抽象的ですよ。何か新しさがないというか。</p>
事務局	<p>ちょっとまた検討させていただきたいと思いますが、これは、シンプルに言いますと、資料にもあるように、しごとづくりとかひとづくり、まちづくりです。国のほうでは、雇用の創出が大きな目標の一つになっています。さらには移住、あとはひと、地域づくりという、国のほうでは大きく4つ出しているのですが、大分市の場合は移住というのは先ほどもちょっと議論になったのですが、現実としてなかなか周辺市から来たからいいかというわけではないので、大分市に合った形で作りかえています。基本的には、今言ったように国のベースがあるので、そのどれが大事ということではなく、たとえば移住もそうですけれども、ただ単に地方に移ってくださいと言っても、住むところもなければ仕事もないと来ないので、仕事も用意しなければいけないし、住むところも用意しなければいけない、相互に関連しますので、なかなか表現として適切なものが見当たらずに申しわけないのですが。</p>
委員	<p>どうぞならわかりやすくと思い発言しました。</p>
事務局	<p>今タイトルの話になったのですが、先般徳島市の事例が取り上げられておりまして、徳島市の総合戦略では4つの目標を立てているのですが、例えば、「子育てするなら3人以上」とか、「若者は徳島市で夢を実現する」などの書きぶりで、4つの新常識という形の提示をしており、タイトルも目を引くようなものとなっています。</p>
委員	<p>別に突拍子もないものにする必要はないのですがね。</p>
委員	<p>今のすごくよかったです。</p>
委員	<p>ひとづくりと人口問題というのはなかなか難しく、わかりにくいといったらわかりにくい。人を育てることがなぜ人口減少をとめていくのかということとかですね。何かあれば、無理のない範囲で設定してはと思います。</p>
委員	<p>今の徳島の見出しは非常にわかりやすくていいのではないですか。そういう観点</p>

	<p>で、1回つくってみたらいいと思います。</p>
委員	<p>人口ビジョンの際にも触れましたが、もう少し具体的なデータなり取組なりを教えてくださいいただければと思います。</p>
事務局	<p>例えば、総合戦略(素案)の28ページをご覧くださいと思いますが、基本的方向の部分になるのですが、この部分が、この後ろに記載のあるコミュニティの再生など、このような個別の取組を全て含んだ基本的方向という形になるので、見出しについてはどうしても抽象的というご指摘があるのですが、その中では具体的な記載はさせていただきますいております。</p>
部会長	<p>ほかにいかがでしょうか。</p>
委員	<p>先ほど大分市の人口ビジョン(案)のときにお示しいただいた目標としてのものが、何を背景にどのようなになっているのかが、今お示しいただいた、人口ビジョン(案)と総合戦略の資料になるということで、これは大変わかりやすいと思います。</p> <p>さらに、計画と戦略についてもっとビジュアル的に配置図を書くとうわかりやすいと思います。最初にいただいたA3の資料でもわかると思いますけれど、このように計画、戦略と言葉が何回も出てくると、どっちがどっちだったか混乱してくるので、もし市民の方々に総合計画や総合戦略について説明する際には、もっとわかりやすいものがあるといいかと思ひます。</p> <p>あと、欲張って言いますと、この基本目標のところ企業誘致の件数など4つの赤字の目標が挙げられていますが、さらにその数字がどのように算出されたのかがわかると、より興味をひきつけられるかと思ひます。</p>
委員	<p>少し細かいところで申し訳ないのですが、1の「しごとをつくり、活力に満ちた大分市」の数値目標に「誘致企業件数」や「小売業の売上高」、「観光宿泊客数」などがありますが、実際のどれだけ雇用者を生むかということを目標にするのも一つの手なのかなと思ひます。それと、小売業の年間商品販売額だけがこちらの基本目標の中に上がってきているのですが、商都大分市ということを活活性化させていくという意味合いが強いのかなという理解はしているのですが、製造業などの目標数値ではなくて、あえて商業の目標、小売業の目標にしている点については、何か意図があるのでしょうか。</p>
事務局	<p>最初に、雇用者についてですけれども、実はそこも相当悩んだところでして、結論から申しますと雇用者についての数値の設定は難しいというのが実情です。雇用者でなくても、例えば新規採用の方が大分市内の高校出身なのか大学なのかなどの統計等がないかを各方面に確認したのですが、なかなか難しい状況にあります。今おっしゃられた指標が本来ここに来るべきだということは認識しておりますので、全く同じ指標、数字でなくても、今もまだ調査をしておりますので、もし見つければまた記載はしたいと考えております。</p> <p>2点目の小売業についてですが、意図があるわけではないのですが、基本的に総合計画から抽出して作成しておりますので、今後、戦略独自で指標として記載できる</p>

	<p>かどうか、また調べてみたいと思います。</p>
委員	<p>小売業の数値目標は、平成26年が4,292億円で平成31年度も4,292億円と同額なので、その指標をもって仕事をつくっているのかなというのがイメージしづらいのかなと思います。観光客や宿泊客が増えるという意味では、確かに仕事が増えたのかなというイメージもあるのであります。</p>
部会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>そういう意味では、その下の「人にやさしい、あたたかさあふれる大分市」のひとづくりについても、せめて待機児童数などが数値目標に出てくるべきなのかなと思いますが。</p>
委員	<p>タイムリーな話題ですね。今日の報道でも大分市の待機児童数が大きく取り上げられたところでもありますし。</p>
事務局	<p>その点については、「ひとづくり」の一番右端の重要業績評価指標(KPI)の欄の一番上に、平成31年度にはゼロにしますという目標は出させていただいております。</p>
委員	<p>もっと表に出したほうがいいのではないですか。</p>
部会長	<p>この表の右側のKPIと左側の数値目標とは、どう違うんですか。</p>
事務局	<p>活動指標と成果指標として区別はさせていただいています。「ひとづくり」のところであれば、待機児童数をなくすとか、子育てサイトのアクセス数を増やして関心を持ってもらい相談をしやすい環境づくりにつなげるとか、そういう支えをして、最終的には子どもの出生率を上げる、出生数を増やすというのが到達すべきいちばん左の数値目標、基本目標になるところであると整理しております。</p>
部会長	<p>KPIの数字の選び方と、基本目標の数値目標とが、ちょっと具体的には言えないんですけども、何となく抵抗があるんですけどね。</p>
委員	<p>多分、基本的な方向・施策の「結婚から子育てまでの切れ目のない支援」という中で、では切れ目のない支援は何かというと、待機児童数ゼロや子育てサイトのアクセス数というのが具体的な数値目標であり、その結果として出てくるところが、合計特殊出生率の1.62というのが、全くイメージが結びつかないということです。</p> <p>例えば、子育てに関する医療費の問題など、そういうものも含まれれば、切れ目のなさというのがもうちょっと表現できるのではないかと思うのですが、これが待機児童ゼロと、サイトのアクセスだけでは、説得力が弱い気がします。</p>
委員	<p>私の理解では、この資料のKPIの欄には「主な」と書かれていますので、今ここに書かれている項目の指標については、代表的なものとか、わかりやすいものが書かれていて、指標そのものの数はもっと種類があると思っていたのですが。</p>

事務局	<p>おっしゃる通りで、例えば今のところであれば、総合戦略(素案)の15ページからが該当箇所になりますが、そこに全ての指標は記載しており、その中から主だったものをこちらの資料に記載させていただいています。ただ、またその点については検討させていただきたいと思います。</p>
部会長	<p>検討されるというのは、この数字だけでなく、取り上げる指標も含めて検討されるということですか。</p>
事務局	<p>そうですね。この指標については毎年検証が必要になるので、医療費がその数値目標として掲げるのに適切な数字になるかどうか検討して、そのうえで記載するかどうか判断したいと思います。</p>
委員	<p>あと、必要になるかどうかわかりませんが、例えば、育児休暇の取得状況であるとか、出産してまた職場復帰した女性の数とか、いろいろと調べてみると企業に呼びかけていけるベースになるようなもの、あるいは目標にすべき数字というのはまだ出てくる気はしております。</p>
委員	<p>ちょっとよろしいですか。基本目標のところ「しごとづくり」が出ていますよね。この場合に、仕事というのはどうしても工業、商業、サービス業、農林水産業という形で出てきますが、2番目の「ひとづくり」ではこの基本的な方向・施策の4点目の「高齢者や障害者が活躍できる社会づくり」ということで、必ず福祉の関係が載ってきます。いつも思うのですが、仕事の中には介護施設などで働いている人が比率的に非常に大きいにも関わらず、「しごとづくり」ということになるとその辺の部分が全く上がってこない。サービス業としては出てきているけれども、今の比率から見たら、地元の商店街などの商業や工業で働いている雇用者から見たら、おそらく福祉関係の方の割合が今高くなっているのではないかと思うのです。だから、それもあくまでも仕事ということで見たときには、やはりその辺のところをどこかでうたわないとおかしくなるのではないかと思っています。</p> <p>福祉ということになると、どうしても福祉そのものの部分のところだけが表に出てきて、いわゆる仕事などの部分では非常に薄れているというか、あまり表に出てこない。一方で、介護保健現場では非常に厳しい条件の中で働いている方がいらっしゃるのも現実です。そのあたりの記載はあるのでしょうか。</p>
事務局	<p>介護士や保育士の不足や、さらには厳しい雇用環境で働いている部分の見直しとかでしょうか。</p>
委員	<p>見直しというか、それが仕事としては大きな事由になってきているのではないかといいことを申し上げています。それについては、ちょっと1回検討してみたらどうでしょう。</p>
事務局	<p>わかりました。そういう切り口からの文章等を検討してみます。</p>
部会長	<p>それは医療従事者も同じですね。</p>

事務局	そうですね。
委員	1点まちづくりのところに関係しますが、文化・芸術を活かしたまちづくりということが、最近県でも市でもよく見られるのですが、多分大分県の方ははっきりと「創造都市」という言葉になって表現されてくるのではなかろうかと思います。というのが、文化・芸術をまちづくりだけではなく、産業や商売とつなげていこうという動きに変わりつつあって、もうめでて楽しむ時代は終わり、それが具体的に地域の活性化にどうつながるのか、要はお金とかインバウンドだとかにどうつながっていくのかというところに話題が変わりつつあるのです。そうすると、「文化・芸術を活かした」ではなく、はっきり「創造都市を目指して」のような文言に最近なりつつあるので、そのあたりについては県からも情報をとりながら、もし連携がとれるようなところがあるのならば文言もそろえて、それこそ商店街にお金が落ちるだとか、観光につながるということになるような言葉を選ばれて、おそらく2、3年後には多分そうなるので、その時点で色あせることのない言葉選びをしておいたほうがいいのかないかという気がしております。ぜひ、いろいろ情報を集めてみてください。
部会長	そうですね。従来、消費と考えられていたものが生産につながる、まちおこしにつながるという視点ですね。
事務局	素案では戦略の31ページのところになるのですが、「(2)個性豊かな文化・芸術の創造と発信」のところの「②文化・芸術活動の振興と活用」の、一番下の「本市の魅力ある文化・芸術資源を観光・産業などの幅広い分野へ活用をします」というところで含んでいるのですが、その具体的なワードとして記載するかどうか検討させていただければと思います。
委員	創造都市、創造農村ですかね、クリエイティブシティ、クリエイティブビレッジですか。このあたりが、世界的にも通用するようになってきているので、これはぜひ検討してください。
部会長	ユネスコ記憶遺産にしろ世界農業遺産にしろ、そういう意味ではすごくいいことだと思います。
委員	3番の「時代にあった地域をつくり、住み続けたい大分市」ですけれども、まず、県外の転出者と県外からの転入者の均衡ということについて、先ほどもお話があったのですが、これはあえて、市内、市外という言葉を使っていないわけですか。
事務局	大分市の転出、転入については、県内の周辺市町村からかなり流入してきており、大分市からは、福岡や東京に出ていって、要は、何もしなくてもというわけではないのですが、周辺からは集まってきているので、では大分市がそれでよいかというと、やはりそれではよくないという認識で、そのように設定しました。
委員	そうすると、恒常的に県外とは転出超の状況ですか。

事務局	はい。ずっと転出超です。
委員	わかりました。 それと、このA3の資料は、最終的な報告書に入るのですか。市民の方とかにご説明するときは、やはりこれは出すようになるのですか。
事務局	これはあくまで概略ということで今回の説明用に準備しました。市民の方への説明用に使用するかどうかは、そこまではまだ検討していません。
委員	少し気になったのが、先ほどのお話にもあったのですが、基本目標で「県外への転出者と県外からの転入者の均衡を目指す」という大きな目標があって、KPIのほうを見ると、文化・芸術関連など、少し関連性が弱いというか、多分基本的な方向で行くと、住宅の整備などが一番関係が強いのかなと思うのですが。
事務局	また検討いたします。
部会長	住宅ですね。確かに、数値目標が一つしかないのはなあと思いますね。
委員	ここだけちょっと、定性的な感じですね。
部会長	あとは、若者が流出するのを防ぐにはどうしたらいいのだろうかというのがとても大きなところで、さっきの人口ビジョンにおいても、30代は流入しているけれど、20代は流出が多い。それをどうするかですよね。ただ、大学進学で県外に行くのはとめられないところもあって、その人たちがどうしたら戻ってきってくれるかですよね。
委員	20代で出ていった方が30代できっちり戻ってきえるようにすることが多分大切です。大分県の中で抱え込んでしまうと、逆に言うと、大分がフレッシュでなくなっていくとか、都会的な空気だとか、最先端の文化というのが滞ってしまうことになるので、むしろ大いに出ていって来て構わないが、そのかわり、大分に帰ってきてねというほうが大事なのかなという気はしています。
委員	そうですね。今話し合ったのは、結果的にこれは全部輪になってつながっていて、目標があってその解決策がこの取り組みだったりします。県外の大学に行くなど、若者の流出も含めてですが、地域連携による経済、生活圏の形成というところでは、地(知)の拠点(COCプラス)などがあり、やはり地域で創生して、地域の大学、地域に就職というのが循環型をまずつくっていく話もあります。
部会長	かなりご意見もいただきました。ここから各論に入るともう時間がありませんので、とりあえずこのくらいで議題(2)はよろしいでしょうか。 それでは議題(3)をお願いします。
事務局	それでは、議題(3)のその他ということで、今後の日程につきまして説明をさせていただきます。

本日、A4で「総務部会開催日程(案)」と書かれた資料をお手元にお配りさせていただきます。そちらをご覧いただきたいと思います。先般8月31日の会議の際にお配りさせていただいたものと一部協議内容のところで変更している箇所がございます。

変更箇所についてですが、先般会議内でも若干ご質問を委員の方々からいただいた点ではございますが、基本構想の「第6 めざすまちの姿(都市像)」ということで、若干太字になっている箇所が、第5回、第6回のところにあるかと思えます。このところが、現在お配りした素案の中でも白紙の状態でご提示をさせていただいておりますが、この部分については他の部会の議論等も踏まえる中でキーワードを抜き出して事務局案を作成させていただきたいと考えていますことから、極力、この協議内容の後半に持っていきたいところがございます、変更した次第でございます。

また、開催日についてですが、本日第2回を開催させていただきましたけれども、第3回、第4回の日程について、以前いただいていたスケジュールをもとに、極力、委員の皆様方が少しでも多く出席可能な日となるよう調整をさせていただいたところがございます。その結果、第3回につきましては、10月20日火曜日の10時から開催したいと考えております。議題につきましては、総合計画(素案)の基本構想の1ページから5ページになりますけれども、「目的」というところから「本市を取り巻く社会情勢と課題」のところまでを議題としたいと考えております。正式な開催案内文書につきましては、また後日送付させていただきたいと思いますので、ご出席いただきますようお願いいたします。

また、その後第4回の開催についてですが、第3回と同じ週になって大変恐縮ですが、10月23日金曜日の15時からを予定しております。こちらにつきましても、あわせて正式な開催案内文書を後日送付させていただきたいと思えます。

今後の開催日程については以上でございます。

部会長

ありがとうございます。

では他に特になければ、これで本日の会議を終わらせてもよろしいでしょうか。

どうも、活発なご議論、ありがとうございました。

事務局

村嶋部会長につきましては、議事を進行していただきましてありがとうございました。皆さま方も長時間にわたり、ご審議大変ありがとうございました。また、今回いただいた意見等を踏まえて、いろいろ資料等データも次回までにそろえられる分を提示する中で、今後も皆様方から貴重なご意見をいただければと思っております。

本当に、本日はありがとうございました。お疲れさまでした。